

晴れた日には出かけよう！
～まちのミリョクを再発見!!～

4 西福寺の子授け不動尊



大久野の坊平地区に「火渡り」で有名な秋川不動尊西福寺というお寺があります。

西福寺の正式名は登覚山来迎院西福寺とうがくさんらいごういんさいふくじといい、元々は天台宗のお寺でした。お寺の名前は「阿弥陀さまが極楽浄土へと迎えてくれる」という誓願を立てて建立されたことに由来していて、建立時のご本尊は阿弥陀三尊だったそうです。やがて、鎌倉時代の後期に天台宗から真言宗へと改宗したことで、ご本尊も阿弥陀三尊から不動明王へと変わりました。改宗後も元々のご本尊だった阿弥陀像は境内の阿弥陀堂にお祀りしてあったのですが、明治15年(1882)の『大久野焼け』という大火で残念ながらお堂ごと焼失してしまいました。



西福寺本堂

西福寺の不動尊は、不動尊には珍しく、子授けの御利益があるのだそうです。しかし大久野焼けの後、ご住職が不在の時期があり子授けの祈禱も一時は廃れてしまいました。やがて今のご住職の代になって、あるご夫婦が子授けの相談に遠方よりお見えになったそうです。そこでご住職は大久野焼けで焼け残った土蔵の中を隅々まで調べて、子授けに関するお札やご祈禱を復活させたのだそうです。

寺の門前の道は旧鎌倉街道で、現在の真言宗のお寺に変わった頃は往来も多く賑やかだったそうです。そのため、ご本尊さまは交通安全などの御利益でも有名な不動尊ということもあり、とても栄えました。また、大久野焼けの前までお寺の南東に広がる畑には、寺で修行するお坊さんたちが寝泊りするための坊ぼうが何棟も建っていました。坊平ぼうへいの地名の由来は「坊のたくさんある平らなところ」ということから来ているそうです。

西福寺では毎年1月に、後北条時代からの伝統ある護摩修行の初不動護摩供が行われます。うず高く積まれた護摩かしょうざんまいくを焚いて護摩供を行い、その後に火生三昧供という火渡り荒修行が行われます。



まだ火が残る護摩の中を駆け抜ける修験僧

火渡りはまだくすぶっている護摩の上を山伏姿の修験僧に続き、信徒、善男善女が歩いて渡ります。1年間の無病息災を祈願するもので、明治以降しばらく中断されていましたが、昭和30年(1965)に復活し、今ではすっかり多摩の風物詩となっています。初不動護摩供は毎年1月の第3日曜に行われます。

アクセス

西福寺へは「萱窪」バス停下車、徒歩10分です。

秋川街道を青梅方面へ向かい多摩聖地霊園の前の信号を右です。



日の出WALK (観光マップ)【J-7】

